

## 交換留学体験作文

国立政治大学

シン ウキ

大寒波の訪れにより、昨日から一気に気温が下がりました。出かけるたびに手が凍りそうなくらい寒くて嫌だったのですが、帰国日が近づくに連れ、それすらも愛しく思えるようになりました。日本にいるこの10か月の間はいろいろな貴重な体験ができ、異文化コミュニケーションを通じて様々な文化を知り、大事な友達もたくさん増えました。綺麗すぎた思い出に後ろ髪を引かれつつ、帰るための荷造りは一通り終わりましたが、気持ちの整理がつくのはまだ先かもしれません。

実は、来日したばかりのころは結構長い間ずっと心が病んでいました。日本に来る前は自分の日本語力に、特にリスニングには割と自信を持っていましたが、緊張なのか不慣れなのか、簡単なことばさえよく聞き取れない場合が多かったです。また、自然に日本語を使いこなせないことに恐怖心を抱いたため、外ではなるべく話さないようにしていました。しかし、時間の流れに伴って、正しい日本語で話すことを求めるより、意思疎通ができるのが一番大切なことだと気づき、だんだんと話せるようになりました。やはり何事も慣れというのは大事だと思いました。

そして、今学期に履修した授業の中で一番印象に残った授業「日本事情演習ⅡB」について話したいと思います。この授業ではお茶大の附属小学校の生徒と交流をし、日本の小学校にも訪問する機会があったので、とても新鮮で楽しかったです。小学生たちとSDGsについて話し合っ、それぞれの問題を解決するための対策を考えるのが、とても大切な体験となりました。みんなは私が想像したよりずっと一生懸命にSDGsを丁寧に解説したので、私はすごく驚きました。小学生のころの私だったら、外国人の留学生とこんな風に話せないと思い、改めて感服します。

また、日本に来て、大学での勉強だけでなく、教室ではなかなか学べない日本語や日本ならではの文化を学びたかったため、去年の夏休みからアルバイトし始めました。アルバイトで生活費を増やそうと思ったのと同時に、食費も減らしたかったので、まかない目当てに飲食店で働こうと決めました。そして Ochat で求人を見つけたので、応募してみました。そのお店で5か月

▼ まかないに出た名前入りのオムライス



とか無事に乗り越えました。このアルバイトを通して、今まで全く気にしてなかった細かいところまで注意するようになり、大雑把で適当人間の私でもきちんと仕事を成し遂げるように成長しました。

最後に、お世話になった方々に深く感謝を申し上げます。まずは指導教官の大橋先生に、いつも温かいお言葉いただいて嬉しくて胸がいっぱいです。ありがとうございます。また、授業のためいろいろ準備してくださった加藤先生、西坂先生、西川先生、松尾先生、黄先生に感謝の気持ちを伝えたいです。そして、生活面でいろいろサポートをしてくださった萩原先生、国際課と音羽館の管理人の方々にも感謝いたします。最後に、いつも支えてくださった友達みんなに、すべての出会いに感謝します。

